

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月底生生物調査 速報

東京都内湾水生生物調査

※値・種名などは速報値であり、変更の可能性があります。

地点名	St.31(多摩川河口)	調査年月日	平成 29 年 5 月 25 日 8:55 ~ 9:20
-----	--------------	-------	------------------------------

<調査地点>



羽田空港

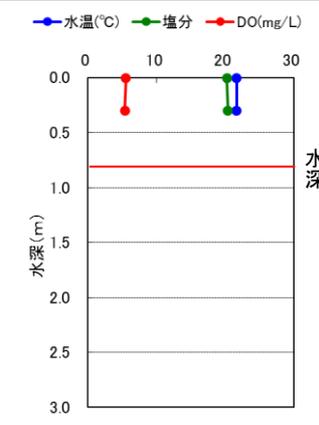
<地点状況、底質状況、底生生物出現状況>



調査地点は多摩川河口部の川崎市寄り。工場の排水口の前面に位置し、水深 0.8m であった。干潮時には、川の中に立つことが可能なほど浅い。



底質は、シルト混じりの砂であった。泥色は黒色に近いオリーブ色で、臭いは無かった。



水深 (m)




多毛類(ミズヒキゴカイの仲間)
アサリ

フルイに残った試料。貝殻に混じって、アサリ、チヨノハナガイ、シラトリガイ属の一種、アラムシロガイの小型の貝類と、多毛類等が採取された。

<主な底生生物>



アサリ

北海道から中国大陸沿岸まで分布する。本調査地点では、小型の個体のみ少量採取された。



シラトリガイ属の一種

シラトリガイ属のゴイサギガイと思われるが、稚貝のため断定はできない。本種だった場合、北海道南西部から九州に生息し、内海や内湾の砂泥底に生息する。



チヨノハナガイ

成貝でも殻長約 2cm で、半透明の薄い殻を持つ小型二枚貝。貧酸素状態でも生存する。また有機汚濁の指標種の一つとされている。



アラムシロガイ

干潟に生息する小型の巻貝。北海道南部以南に分布する。肉食性で魚類等の死体を捕食する。



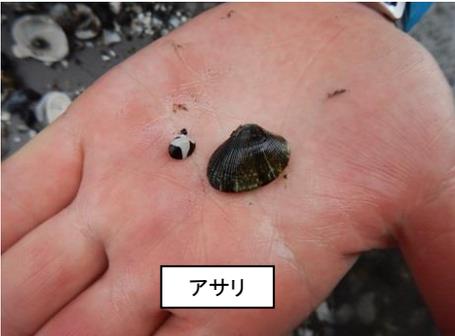
多毛類 (ミズヒキゴカイの仲間)

世界中に生息し、日本においても全国の干潟に生息する。

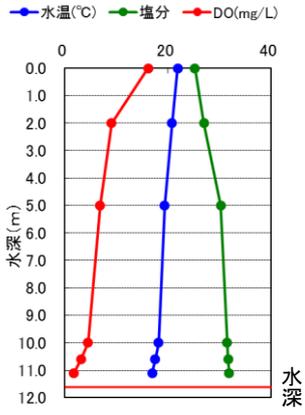
東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	平成 29 年 5 月 25 日 9:45 ~ 10:15
<p>〈調査地点〉</p>  <p>海老取川 多摩川</p> <p>—●— 水温(°C) —●— 塩分 —●— DO(mg/L)</p> <p>水深 (m) 水深</p>	<p>〈地点状況、底質状況、底生生物出現状況〉</p>  <p>多摩川と海老取川の合流点付近に広がる干潟。</p>  <p>採取地点周辺には、カニの巣穴が多くみられ、大小多数のカニが確認された。</p>  <p>底質は、シルト混じりの砂であった。泥色は黒色に近いオリーブ色で、臭いは沼沢臭が微かにあった。</p>  <p>フルイに残った試料。貝殻片が多く、底生生物としては、ヤマトシジミ、アサリ等の貝類や、甲殻類などが確認された。</p>		
<p>〈主な底生生物〉</p>  <p>ヤマトシジミ</p> <p>ヤマトシジミは多摩川河口部で近年増加傾向にあり、大小様々なサイズの個体が確認された。</p>  <p>ヒメシラトリガイ</p> <p>内湾の潮間帯付近の砂泥底に生息する。しばしば採取されるが、多量に確認されることは少ない。</p>  <p>アサリ</p> <p>小型の個体が少量採取されたのみであった。アサリは環境悪化と漁獲によって減少傾向にある。</p>  <p>ソトorigai</p> <p>日本では、北海道から九州に分布する。潮間帯から水深約20mの砂泥底に生息する。殻は薄いため採泥器で採取すると割れてしまうことが多い。</p>  <p>ヤマトオサガニ</p> <p>採取地点周辺に多数見られた。干潟の代表的なカニで、干潟鳥類にとっての重要な餌になっている。</p>  <p>ムロミスナウミナナフシ</p> <p>日本各地の海水と河川水が混ざる汽水域に生息する。最初に発見された北部九州の室見川に由来した名前を持つ。</p>			

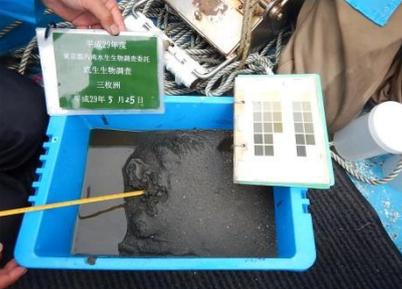
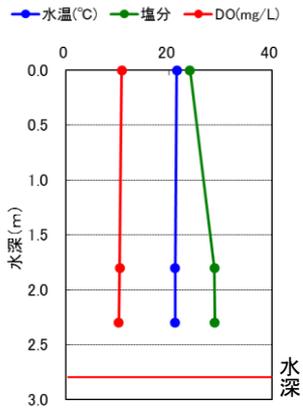
東京都内湾水生生物調査

<p>地点名</p>	<p>森ヶ崎の鼻</p>	<p>調査年月日</p>	<p>平成 29 年 5 月 25 日 10:30 ~ 11:05</p>																																
<p><調査地点></p>		<p><地点状況、底質状況、底生生物出現状況></p>																																	
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="587 340 997 645"> <p>西を望む</p>  </div> <div data-bbox="1018 340 1428 645"> <p>東を望む</p>  </div> </div> <p>羽田空港の北側に残された天然の干潟。調査時には、大潮の最干潮時だったため、広く干出していた。</p>																																	
<table border="1" data-bbox="247 683 534 1108"> <caption>水深別の水質データ</caption> <thead> <tr> <th>水深 (m)</th> <th>水温 (°C)</th> <th>塩分</th> <th>DO (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0.5</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1.0</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1.5</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2.0</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2.5</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3.0</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		水深 (m)	水温 (°C)	塩分	DO (mg/L)	0.0	20	10	0	0.5	20	10	0	1.0	20	10	0	1.5	20	10	0	2.0	20	10	0	2.5	20	10	0	3.0	20	10	0	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="587 734 997 1039">  <p>底質は、砂であった。泥色は灰色で、臭いは無かった。</p> </div> <div data-bbox="1018 734 1428 1039">  <p>フルイに残った試料。貝殻片が非常に多く、底生生物としては、アサリ、多毛類等が確認された。</p> </div> </div>	
水深 (m)	水温 (°C)	塩分	DO (mg/L)																																
0.0	20	10	0																																
0.5	20	10	0																																
1.0	20	10	0																																
1.5	20	10	0																																
2.0	20	10	0																																
2.5	20	10	0																																
3.0	20	10	0																																
<p><主な底生生物></p>																																			
 <p>アサリ</p>		 <p>多毛類(ミズヒキゴカイの仲間)</p>																																	
<p>捕獲された数は少なかったが、大小の個体を確認することが出来た。近年、潮干狩り用に、各地で採られた個体を放流され、もともと居た個体群が消滅する危険がある。</p>		<p>汚染環境下においても生存することが出来る。</p>  <p>多毛類(チロリの仲間)</p> <p>チロリの仲間は東京湾では、チロリとヒガタチロリが生息する。</p>																																	

東京都内湾水生生物調査

地点名	St.6	調査年月日	平成 29 年 5 月 25 日 11:35 ~ 12:05
<p><調査地点></p> 	<p><地点状況、底質状況、底生生物出現状況></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>調査地点はフェリー埠頭と中央防波堤内側埋立地の間に位置する。調査時の水深は11.6mであった。下層付近のDOは、1.7mg/Lであり、貧酸素状態であった。</p> <p>底質は、シルトであった。泥色は、黒色に近いオリーブ色で、臭いは硫化水素臭が微かにした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>フルイに残った試料。貝殻片は少なく、底生生物としては、シズクガイ、多毛類等が確認された。</p>		
<p><主な底生生物></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="311 1167 767 1503">  <p style="text-align: center;">シズクガイ</p> <p>半透明の薄い殻を持つ小型の二枚貝である。チヨノハナガイ同様、有機汚濁の指標種の一つとされている。</p> </div> <div data-bbox="887 1167 1343 1503">  <p style="text-align: center;">多毛類(チロリの仲間)</p> <p>チロリの仲間は、頭の前から4本の小さな歯が付いた吻(口)が飛び出る。干潟生物の中では悍猛である。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="485 1641 941 1977">  <p style="text-align: center;">多毛類(カワゴカイの仲間)</p> </div> <div data-bbox="954 1861 1385 1973"> <p>全国の干潟に生息する。カワゴカイ属は、昔ゴカイと呼ばれていた種類である。今では3種類に分けられているが、肉眼では区別するのは難しい。</p> </div> </div>			

東京都内湾水生生物調査

地点名	三枚洲(荒川河口)	調査年月日	平成 29 年 5 月 25 日 12:35 ~ 13:15
<p>〈調査地点〉</p>  <p>三枚洲</p>	<p>〈地点状況、底質状況、底生物出現状況〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="619 331 1034 638">  <p>荒川と旧江戸川の河口に残された天然の浅場。調査時は、水深 2.8m であった。</p> </div> <div data-bbox="1054 331 1469 638">  <p>底質は、砂であった。泥色は、黒色とオリーブ色の混合色で、臭いは無かった。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="625 728 1040 1034">  </div> <div data-bbox="1061 728 1469 1034">  <p>ミゾガイ マテガイ 多毛類(チロリの仲間)</p> </div> </div> <p>フルイに残った試料。夾雑物は貝殻片が少なく、底生物はマテガイ、ミゾガイや多毛類等が確認された。</p>		
<p>● 水温(°C) ● 塩分 ● DO(mg/L)</p>  <p>水深(m)</p> <p>水深</p>			
<p>〈主な底生物〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 20px;"> <div data-bbox="316 1160 778 1505">  <p>マテガイ</p> <p>北海道から中国大陸沿岸まで分布する。成貝になると殻長約 15cm まで成長する。外洋に面した前浜干潟に多く生息する。干潟の潮間帯に深く潜っているため、捕獲するには巣穴に塩を撒くと、飛び出てくる。</p> </div> <div data-bbox="928 1160 1391 1505">  <p>ミゾガイ</p> <p>日本では、房総半島から九州に分布する。成貝でも殻長約 3cm の二枚貝。潮間帯下部から水深約 50m の細砂底に生息する。殻が薄く半透明のため、中身が透けて見える。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-bottom: 20px;"> <div data-bbox="657 1662 1120 2007">  <p>多毛類(チロリの仲間)</p> </div> </div> <p>チロリの仲間は、釣り餌として利用することができる。</p>			